



社会福祉法人 こぐま福祉会

福岡県小郡市大板井1143-1
 電話番号 0942-72-7221
 FAX 0942-72-7222



発行人
 こぐま福祉会
 「そら」編集委員会



<http://www.koguma.ed.jp>



まほうパックの絆

新型コロナウイルスが感染拡大し、長期的に大きな危機に直面しています。改めて、日常の何気ない毎日のありがたさを実感された方も多いのではないのでしょうか。このような困難な時期こそ、皆が周囲の人を思いやり、支えあう事の大切さを改めて実感しています。こぐま福祉会においても、新型コロナウイルス感染拡大防止やその対応において、色々な方にご理解ご協力を頂いており感謝申し上げます。

就労継続支援B型事業 Smile Work では、小郡市役所より依頼を受けて、自立支援協議会就労ワーキングチームの他機関と連携して、新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急小口資金・総合支援資金等の給付金を申請された世帯に、まごころパックをお届けする取り組みを行っています。

まごころパックとは、小郡市内の就労系事業所が制作している食品(米・野菜・パン・菓子等)を持ち寄り、梱包し各家庭にお届けする取り組みで、各事業所や市役所福祉課が連携して実施しています。まごころパックを受け取って頂いた時、少しでも笑顔になって元気を出して頂けるよう心を込めて製作しています。

こぐま福祉会からは、利用者の皆様と一緒に作ったクッキーと梅干にメッセージカードを添えて納めています。コロナ禍で大変な毎日ですが、色々な困難を皆で乗り越えていきましよう。(おとな支援部部长 横尾)

心の窓



Smile Work
あみ杏実さん

我が家に3人目の子供として誕生して来たダウン症の杏実。笑顔が素敵で音楽、ジャニーズ(イケメン)大好きでもうすぐ21歳になる杏実。上の姉弟とは、10歳近く離れていて妹が産まれて来る事を待ち望んでいました。しかしお腹にいた時、成長が遅い、超未熟児で産まれる可能性があると云われ久留米大学病院で出産する事になりました。もしかしたら障害があるのかもという不安はあったものの無事出産。なかなか泣かない、やっとお尻を叩かれ産声を上げ私の所に連れて来られた杏実を見て喜びよりもダウン症に感動より、不安、申し訳ない気持ちでしつかりと抱いてあげる事が出来なかつた事、今でもはつきりと覚えています。その時の私は、何か分からないものに押し潰されそうでした。

同じ障害児を持つ親同士の交流、スタッフさん達からの知識、子供に刺激を与えて成長して行く杏実の姿、私も家族も杏実も人として成長しました。障害もその子の個性だと思える様になり、上の子育てで感じなかった、年齢と共に成長してゆくとは違い、ゆっくりと私と成長を共に感じた事、大きな喜びです。

小中学校は、出来るだけ同じ年の子達の中で頑張っで欲しくて通わせて、高校は特別支援学校に通わせましたが、中学から特別支援に通わせておけば良かったと少し後悔しています。交流学級での授業はきつかったみたいで、自転車にいたずらされたりと、良い刺激もありましたが、杏実にとつて厳しかった様にも思いますが、0歳児から通っていたこぐま学園にB型作業所が出来るといいう事で、慣れ親しんだ場所では楽しくクッキー作り等行っています。少し気が強くて口が達者なので、衝突する事もあるみたいですが、杏実自身が自分なりに精一杯やっているみたいで、

これからも、杏実の自立出来る様にサポートしながら、やっで行きたいと思えます。(杏実の母)



夏がやってきた!

毎日、暑い日が続いていますね。夏といえば毎年恒例のウォータールランド。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら中止となりました。他にも大きなプールに入る事など、全身を使つてのダイナミックなあそびは難しい状況ですが、新しいあそび方を発見できるチャンスでもあります。スタッフ一同、どうすれば楽しめるかなあと頭をフル回転させているところです。

限られた設定の中ではありますが、子どもたちはいつものように全力であそび、キラキラと輝く表情がたくさん見られています。寒天、片栗粉、絵の具、氷など夏ならではのアそびでひんやりとした感触を感じ、ワクワクの子どもたち。心に残る夏の思い出ができるといいなと思います。(保育士 大倉)



寒気持ちはいいな♪



絵の具めりめり♪

こぐまLINE



事務部 橋村 けしお

こんにちは。事務部に所属しています。橋村と申します。簡単ではありますが自己紹介させていただきます。私は、八女市出身で地元の酒蔵に就職いたしました。創業が江戸時代です。ので、一九〇年以上続く老舗の酒蔵です。蒸した酒米のにおいが蔵中に漂い、かまどで煮た粕汁を仕事の合間に食べたのは良い思い出です。

現在は久留米市に住み、息子が2人います。少々子育てが大変になり、十数年勤めた会社を退職しました。その間はパートで働きながら子育ての勉強会等に行き、専門の先生の力をお借りして、落ち着いてきたところでもう一度仕事をやりたい気持ちになり、縁あってこぐまの一員として働いています。

落ち着いたと言っても、困りごとや失敗はありますが「こんな時もあるよね」と息子の前向きな言葉を聞くと、私も前向きに頑張ろう!という気持ちになります。

最後になりますが、私は利用者様と直接お話しすることは少ないですが、楽しく療育されている姿を見ますとほっこりします。これからも陰ながらこぐまのこと、利用者様のことをしっかりとサポートしていきます。

こぐま福祉会における新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

コロナ禍の制限が多い生活の中、少しずつ平常を取り戻しつつありますが、まだまだ気を緩めるわけにはいきません。

こぐま福祉会では、今年の2月末に新型コロナウイルス感染症に対する危機管理対策本部を立ち上げ、それ以降、国内および福岡県内の感染の動向と福祉会内の現状を確認しつつ、検討会議を定期的に行っています。当福祉会では、職員の危機管理を高めることが重要だと考え、会議で決まった情報はすぐに職員全体で共有するようにしてきました。

緊急事態宣言が出てからは、福祉施設として継続して開所してきましたが、利用者の皆様の安全を守るために利用人数や利用回数・時間を制限させていただき、新規の方や外部からのお客様には控えていただきました。在宅で過ごす時間が長くなる利用者の皆様には、電話相談での在宅支援にも取り組みました。今後はオンラインでの支援にも力を入れていこうと計画しています。

緊急事態宣言が解除されてからは、安全を確認しながら三段階に分けて、利用回数や送迎方法を一段階ずつ広げてきました。それでも元通りとはいかないのがこのコロナ禍。今も皆様が触る可能性のあるドアノブや玩具の消毒と定期的な換気は徹底して行っています。一時期足りなくなるかと心配していたマスクやアルコール類は、今は十分に準備できています。安全に考慮し、残念ながら夏のプールは取り止め、たくさんの人が集まる行事は縮小もしくは中止にしています。今後も安全第一で取り組んでいきますので、皆様どうぞご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。(ゆう園長 林智香子)

こども部門

緊急事態宣言開始より、閉園はせずに、各グループの人数制限や登園回数を減らしての対応及びご家族への自粛のご協力をお願いしながら4月～5月の期間を過ごしてきました。

在宅支援として、電話での健康確認や家庭での対応を個別訓練スタッフとも連携をしながら行ってきました。オンライン支援の準備チームを発足し、今後に向けて取り組んでいます。今後の状況を踏まえ在宅支援の充実に向けて進めて行きたいと思っております。また、家庭にて出来る制作課題を郵送し次回の登園時に持って来て頂きました。

環境対策として、換気の徹底、給食時の配置の工夫、療育終了後の使用した道具やマット類の消毒を徹底して行っています。6月以降は、登園の条件を対策会議にて所長、副所長を含めて検討しながら通常の体制への移行を進めています。

今後も引き続き、国や県の情報を常に確認しながら、感染拡大防止に努め、安心して登園して頂けるように対策を行っていきたく思います。(こども支援部部長 橋本)



成人部門

就労継続支援B型事業所 Smile Work と生活介護事業所べあクラブでは、5月～6月にかけて、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、在宅支援を行いました。

電話相談による健康状態のチェックや日常生活での不安や課題の相談対応を行い、生活介護では、理学療法士からの健康維持の為のアドバイスプリントや在宅期間中取り組んで頂きたい体操や制作課題の配布。就労では、挨拶訓練用チェックシートやドリルの配布、制作課題と手作りキット、実施確認表等の配布です。

中でも、Smile Work のクッキーの模型を紙粘土で作った手作りキットは好評で、ご自宅でクッキーの計量や袋詰め等の練習等、熱心に取り組んで頂きました。

(おとな支援部部長 横尾)



診療所

リハビリテーション課では感染症対策として、こまめな手洗いや手指消毒をはじめ、おもちゃや教材の消毒を行っています。また、気管切開を施すなど配慮が必要なお子様には予防衣、ゴーグルを着用しています。また、マスク着用では表情がわかりにくく不安になるお子様には、マウスカバーを着用し、表情がしっかり見えるような配慮を行っています。

皆様が安全に、安心して診療所を利用できるよう、引き続き最大限の配慮、対策を行ってまいります。(総合支援部部長 田中亮)



熱中症予防×コロナ感染防止で健康に過ごそう！

今年の夏は、新型コロナウイルス感染防止と熱中症を防ぐため一人ひとりができる「新しい生活様式」は次の3つが挙げられます。

- ① 身体的距離の確保
- ② マスクの着用
- ③ 手洗いの実施や3密（密接・密集・密閉）を避ける



これから、夏を迎えるにあたり新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐと共に一層、熱中症に注意して頂くため予防ポイントをまとめてみました。

【熱中症とは】
熱によって起こるさまざまな身体の不調のことをいいます。暑さによって体温調節機能が乱れたり、体内の水分量・塩分量のバランスが崩れたりすることが原因です。

【症状】
立ちくらみや、呼吸・頻脈、唇のしびれ等です。大量の汗をかいて体内の水分と塩分が不足すると足や腕、腹などの筋肉に痛みを伴うけいれんが起ることがあります。ほかに、頭痛、めまい、吐き気などの症状が見られます。

特にお子様は、暑い日や時間帯を避けた無理のない外出をするなどの暑さを避ける行動や、こまめな水分補給（スポーツドリンクなど）に気を付けましょう。

感染防止をしながら熱中症対策を！
① マスクの着用について
マスクは飛沫の拡散予防に有効ですが、着用することで体感温度が上昇し、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合にはマスクを外すようにしましょう。

また、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心掛けましょう。

② エアコンの使用について
熱中症予防のためにはエアコンの活用が有効です。

新型コロナウイルス対策のためには、冷房時でも窓開放や換気扇によって換気を行う必要があります。換気により室内温度の調整を上手に行いましょう。

③ 車椅子でお出かけについて
車椅子は、思いのほか地面が近く、照り返しでかなりの暑さになります。そこで暑さ対策グッズや（簡易扇風機など）保冷剤、水分などをしっかり装備の上、熱中症に十分注意してお出かけしましょう。

④ 日頃の健康管理について
体温測定を行い、平熱を知ることによって発熱に早く気付くことができます。

体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅で静養するようにしましょう。

（医務 内藤）

特別支援学校見学へ行ってきました！

今年度、年長児の保護者の方を対象に小郡特別支援学校の見学会を行いました。今回は新型コロナウイルスの影響で例年よりも遅い時期での開催となりましたが、たくさんの方の保護者の方に参加していただきました。

見学会では、担当の先生より学校の教育方針や概要を伺った後、授業風景や施設を見学しました。実際に学校へ出向いて、校舎や教室等の環境面や授業風景、生徒さん方の普段の様子を見ることで、就学後のイメージが付きやすくなりました。今後、この見学会が就学先を検討する材料のひとつになれば幸いです。

また、見学会を開催するにあたり保護者の方には人数制限等にご協力いただきありがとうございました。（相談員 荒巻）

退職者のお知らせ

- ・小川 佑子（言語聴覚士）
- ・桐川 貴美（Life 臨床心理士）
- ・林田 輝実（支援員）
- ・藤山 龍朗（運転・営繕）

（五十音順）

今までありがとうございました。

職員研修会報告

6月30日（火）職員の内研修会を行いました。「虐待防止・防犯・防災」の3つのテーマについて、重要性やこぐま福祉会の取り組みの現状を見直す機会として年に1回実施しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、部門ごとに分かれて担当が講義する形式で行いました。部門ごとに行なったことで、より具体的な内容を意見交換することができ、例年以上に充実した研修となりました。

先日も全国的に水害による大きな被害が出ました。また、不審者による事件やニュースも後をたちません。そして、虐待防止については利用者の方々と関わる職種として重要な内容です。

毎年研修を行うことで、より理解を深め、研修で学んだことを法人全体で共有し、虐待や防犯・防災についての意識の向上や、日々の取り組みの中のサービスの質の向上に繋げ、安心してご利用頂ける事業所作りを行っていきたくと思っております。（職員研修担当 宇野）

行事予定

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため10月までは中止とさせて頂きまます。ご理解の程よろしくお願い致します。

10月以降の行事予定につきましてはホームページをご確認下さい。

《特別支援学校見学会日程》

○久留米特別支援学校

